

文化芸術×共生社会フェスティバル in 美術館

# 映画「地蔵とリビドー」野外上映会&トーク



日時：2021年11月14日(日)

□16時30分～17時30分 関連トーク (会場：滋賀県立美術館木のホール)

□18時00分～19時10分 「地蔵とリビドー」野外上映会 (会場：びわこ文化公園 催し物広場)

※美術館から徒歩約3分

申込方法等

詳しくは裏面へ

主催：滋賀県立美術館、「文化芸術×共生社会プロジェクト」実行委員会

協力：やまなみ工房

令和3年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業



# 映画「地蔵とリビドー」野外上映会&トーク

障害者福祉施設「やまなみ工房」（滋賀県甲賀市）に所属する作家の作品制作現場に迫るドキュメンタリー映画「地蔵とリビドー」の野外上映会と関連トークを開催します。トークでは、障害のある作家たちの表現に現場で向き合ってきた、みずのき美術館の奥山理子氏とやまなみ工房の山下完和氏、そして、当館ディレクターの保坂健二郎が登壇。人間の表現欲求の根源や多様性について感じ、考えていただける機会となります。ぜひ、ご参加ください。

## ◆トーク出演



奥山 理子

みずのき美術館  
キュレーター

Photo: Sepide Hashemi



山下 完和

やまなみ工房  
施設長



保坂 健二郎

滋賀県立美術館  
ディレクター  
(館長)  
Photo: 木奥恵三

◆参加料：無料（トークへの参加には、開催中のリニューアル記念展「ボイスオーバー 回って遊ぶ声」のチケット半券または滋賀県美メンバーズ会員証の提示が必要です）



◆申込方法：スマートフォンで、右記二次元コードよりアクセス →  
または、滋賀県立美術館公式サイト内のページから <https://www.shigamuseum.jp/events/2915/>  
《申込締切：11月13日(土)12時》

◆募集人数：先着 70 名

## 【バリアフリー情報】

トークでは手話通訳とヒアリングループ、映画では日本語字幕をご用意しています。その他、ご参加にあたりサポートが必要な方はお問い合わせください。

※**雨天の場合、野外上映会は中止します。**トーク参加者向けに、当館木のホール内で映画を上映します。

※野外上映会のみでの参加もできます。その場合事前申込は必要ありませんので、直接公園内の催し物広場へ上映開始時間までにお越しください。

※野外上映会の会場では椅子席をご用意しますが、芝生の上でご持参いただいたシート等を広げて座っていただくことも可能です。

■夜間の屋外は冷え込む恐れがありますので、**防寒対策をしてご参加ください。**

■お車でのお越しの方は、催し物広場から近い、びわこ文化公園の**東駐車場**または**北駐車場**にお停めください。



「メメハナクチ」現実との区別がつかなくなってきた

OFFICIAL SELECTION  
PAAFF  
FILM FESTIVAL  
フィラデルフィア・アジアティック・アメリカン映画祭2018 正式招待作品

自分の場合は「歌いたい」と同時に「評価されたい」って気持ちがあるけど、やまなみ工房の人たちは「作りたいから作る」ただそれだけ。  
ミュージシャン・向井秀徳

よくぞこの密着を実現した、と拍手を送りたい。  
映画ライター・よしひろまさみち

ラストシーンに映し出されるのは、この社会への批評である。  
HUFFPOST

SUPPORTED BY  
日本映画 多様性  
DIVERSITY  
IN THE ARTS

#地蔵とリビドー  
#JIZOLIBIDO  
www.jizolibido.com

独自の「アート作品」を生み出し続ける障害者施設「やまなみ工房」。いま彼らの作品はアメリカやヨーロッパのアート市場を中心に世界的な注目を集めている。工房に通所するのは知的障害や精神疾患を持つアーティストたちだ。彼らは実名で登場し、その日常が包み隠さず描かれている。

作品がいつ完成するのか、それは彼ら自身にもわからない。作品が誰にどう評価されるのか、彼らはまるで関心がない。ただ衝動的に創作し続ける彼らの姿がそこにあるだけ。ひとつ事実として言えるのは、作品が彼らと他者との確かな結節点となっていることだ。アウトサイダー・アートに造詣の深いジャーナリストや美術関係者へのインタビュー、障害を持つアーティスト自らが語る「精神状態と創作の関係性」など、彼らの切実な表現欲求の根源を探るドキュメンタリー。



JIZOLIBIDO  
地蔵とリビドー



地蔵しか作らないんだって